

中長期目標 (学校ビジョン)		多様な背景を持つ生徒に「学ぶ意欲」を育て、「優しさと感謝の心」を育み、「自分も役に立ちたい」と前向きに共生する資質と「社会的な自立を実現する」といった意欲・態度を育む。		今年度の 重点目標		1 学ぶ意欲の喚起・育成 2 真摯かつ心豊かに他と共生する態度の育成 3 「ふるさと」とつながる心の育成 4 社会的な自立に向けた支援	
年 度 当 初					評 価 結 果 (9月)		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 学ぶ意欲の喚起・育成	○授業のユニバーサルデザイン化	○「分かる」を大切にしながら主体的に授業に取り組む態度を育てることが必要である。	○学習に集中し、意欲的に授業に参加することができる。 ○単位修得率80%以上	○全職員による生徒情報の共有 ○全ての教員によるユニバーサルデザイン研修・合理的配慮の視点を取り入れた授業の展開 ○支援が必要な生徒への個別指導	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮について、転入職員への説明会を実施した。 ○特別支援教育支援員と白鳳サポーターを配置し、個別指導を充実させている。 ○前期の単位修得率は定時制78.3%、通信制85.7%であった。	B	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮の視点に基づき、授業の指導方法の改善をさらに推進する。 ○情報共有を密に行い、支援が必要な生徒への個別指導を継続する。
	○ICT活用教育の推進	○世の中のICTの普及と利便性より、情報活用能力の育成が必要である。	○各自の課題の解決に向け、主体的にICTの活用ができる。 ○ICT機器に抵抗感のない生徒80%以上	○ICTの活用のための教員研修と環境整備 ○ICTを活用した教材の充実 ○ICTを利用した授業実践 ○NHK高校講座でのICT活用	○chromebookは多くの教員が授業等で活用しており、生徒も学習活動に取り入れている。 ○授業資料の配布やアンケートなどをGoogle Classroomで行い、ICT活用を推進している。	B	○ICT機器の活用をさらに推進し、職員のスキル向上を図る。 ○研修会を企画・実施し、授業改善につながる指導力の向上を図る。 ○ICTを活用しやすい環境整備を継続的に進める。
	○生徒理解と環境整備	○多様な生徒のおかれた状況・背景を理解し、学ぶ意欲を高める必要がある。	○生徒が安心して学校生活を送り、意欲的に学習活動に取り組むことができる。 ○学校に対する安心感がある生徒80%以上	○個人面談・hyper-QUの実施による生徒理解と個別支援の充実 ○SC・SSW・特別支援教育支援員・白鳳サポーターとの連携 ○通信制就学支援事業(学校内託児)の推進 ○「通級による指導」で学んだことを通常学級で活かす校内支援体制の推進 ○生徒理解のための教員研修の実施と充実	○中学校からの引継と中学校への引継返し、関係機関との情報共有、合理的配慮申請による支援会議やHyper-QUを実施した。 ○各課程会議での情報共有やSC・SSW・特別支援教育支援員・白鳳サポーター・精神科学校医と連携し、情報共有を行った。 ○通信制就学支援事業(学校内託児)は、継続利用する生徒もあり、好評だった。 ○「通級による指導」を計画通り実施し、生徒のソーシャルスキルが少しずつ向上している。 ○教職員研修を通して、発達障がいについての理解が深まった。	A	○共有した情報をもとに、支援方針を引き続き検討していく。 ○中学校との連携、関係機関との情報共有、合理的配慮申請による支援会議やHyper-QUを活用し、個別支援をさらに充実させる。 ○「通級による指導」で学んだことを通常の学級で活かすために、教職員への周知の在り方を検討する。 ○「通級による指導」に関する調査・研究をさらに進め、通級による指導を充実させる。 ○教職員研修で学んだことを機を捉えて実践する。
2 真摯かつ心豊かに他と共生する態度の育成	○基本的生活習慣の確立	○挨拶、言葉遣いなど基本的生活習慣を身につける取組が必要である。 ○無断遅刻、欠席する生徒がいる。	○早寝早起き等の生活のリズム及び適切な食生活を心掛ける。 ○すすんで挨拶をし、社会人として必要な言葉遣いができる。	○遅刻・欠席の防止指導、家庭連絡の徹底 ○立ち番指導の実施 ○積極的な挨拶・声かけ ○社会人としてのマナー指導 ○健康を意識した体調管理指導の推進	○担任が家庭連絡を取り、遅刻や欠席などについて丁寧な指導を行っている。 ○4月と9月の2回執行部の生徒を中心に立ち番を実施した。保護者や派出所の警察官にも協力していただいた。年々参加者が多くなり、PTA役員や他団体も立ち番に参加していただいた。 ○自転車の登校時ヘルメット使用について、ほぼ着用できているが、若干名指導にのれない生徒もいる。	B	○遅刻や欠席の多い生徒に対し、担任・教科担当との連携を密にし、生徒の実情に合った指導を実施する。 ○ヘルメット着用について、引き続き粘り強く声掛けをしていく。
	○自己理解・他者理解の促進	○自己と他者の違いや多様性を受容できる人間関係育成のための環境づくりが継続的に必要である。	○生徒同士の信頼関係が醸成され、お互いを尊重し合ったクラスが居心地の良い場となる。 ○学校が楽しいと感じる生徒80%以上	○生徒理解のための教員研修の実施と充実 ○エンカウンターの実施 ○性に関する指導や人権教育の充実 ○生徒向け教育相談講演会の実施	○エンカウンターを実施し、居心地のよいクラス環境づくり、人間関係づくりを行った。特に新入生にとっては、生徒同士が関わる良いきっかけとなったようである。 ○中学校時に比べて登校を継続できる生徒が増えた。 ○「性に関する指導」講演会や第1回人権教育LHRを実施した。 ○生徒向け教育相談講演会は10月に実施予定である。 ○人権教育LHRを10月、11月に実施予定である。	B	○生徒間の人間関係力を引き続き育成する。 ○今後もエンカウンターを実施し、安心できる居場所としてのクラスづくりを行う。 ○後期の人権教育LHRに向け、人権教育推進委員会で協議を重ねる。
	○個に応じた指導と集団の活性化	○人との関わりやコミュニケーションを特に苦手とする生徒がいる。	○自分自身を認め、自分について理解し、自らの課題に適切に対応していくことができる。 ○生徒会行事に積極的に参加した生徒の割合85%以上(定時) ○積極的に行事に参加し、アンケートにて「参加して良かった」と満足度を示す回答が90%以上(通信)	○生徒ひとりひとりの課題に応じたきめ細かい指導 ○自主性を活かした部活動の運営 ○執行部活動の充実	○情報を共有し、実態把握に努めた。場合によっては、外部機関の協力を得て指導した。 ○バドミントン部・卓球部は県予選大会で好成績を残し全国大会に連続して出場した。また、軟式野球部は3年連続で県総体に出場できたが、今年も県内大会予選を突破できなかった。 ○定時制課程では、生徒会活動も生徒が主体的に取り組むようになり、前期は対面式・部活動紹介・スポーツフェスティバル、生徒総会、立ち番指導などを行った。スポーツフェスティバルや学校祭では、事前に全校生徒に対しアンケート調査を実施し、満足度の高い充実した運営をすることができた。 ○風楽祭(通信制学校祭)は参加人数が少なかったが、参加生徒は満足した。通信制課程においても、生徒会執行部を中心に、主体的に行事に参加するようになってきている。 ※参考までに、通信制で実施した行事のアンケート結果(「満足した」との回答) 球技大会(15/15)・定通総体(5/5)・風楽祭(通信制文化祭)(28/28)	B	○引き続き、学校内はもちろん学校外とも連携を強化していく。 ○県生連大会や生活体験発表大会、白葉祭(定時制学校祭)、校外研修(通信制課程)など生徒会執行部員が活発に活動できるように引き続き支援する。
3 「ふるさと」とつながる心の育成	○体験活動をととした社会性の育成と自己有用感の醸成	○社会的体験を積み重ね、さらに社会性を高めることが必要である。	○自らすすんで行動し自信と責任を持って活動することができる。 ○「自信がついた活動があった」と感じる生徒の割合80%以上	○定通充実事業(チャレンジものづくり体験・テーブルマナー講習・乗馬体験・校外研修・蔵書点検ボランティア)および実習を通した達成感の習得に向けた取組の推進 ○アルバイト、ボランティア活動、地域美化活動の推進	○計画に基づき実施しており、体験活動を通して生徒の社会性が育まれ、自己有用感を高める機会となっている。	B	○今後も計画に沿って実施していく。
	○地域との交流と協働	○地域との交流をととし、地域社会や周囲の環境の良さを認めるなど関心をさらに高める必要がある。	○地域社会や環境に関心を持ち、異世代とのコミュニケーションができる。 ○園児との交流に積極的に参加した生徒の割合80%以上	○さつまいもの植付・収穫・会食を通した園児との交流 ○コミュニティ・スクールによる意見・提言の活用 ○淀江地区との交流を通したふるさとの特徴理解(銭太鼓・傘踊り体験、和傘作り、ヒガンバナの植栽活動、淀江さんこ節保存会)	○計画に基づき実施しており、地域の人々や文化に触れることをとおして、生徒は他者との関わりや社会とのつながりを学ぶことができる。	A	○今後も計画に沿って実施していく。
	○自己表現力の育成	○自分の思いや考えをうまく相手に伝えることができなため、相手に誤解を生ずる、誤解してしまう生徒がいる。	○周囲の状況に配慮した発言・行動が出来る。	○協働学習の推進 ○発表する・発表を聞くときの意識・姿勢の指導 ○一斉読書を活用した読書指導の充実	○学習発表会(1月実施)を見据え、産業社会と人間、総合的な探究の時間において学年団を中心に指導している。 ○毎週、一斉読書を実施している。	B	○日々の授業でも意識・姿勢が必要。
4 社会的な自立に向けた支援	○ふるさとキャリア教育の充実	○社会の変化に対応するため、適切な勤労観の育成及び進路意識を早期に向上させる必要がある。	○自分自身の適性・特徴にあった進路実現を達成することができる。 ○自分の適性、就きたい職業について考えるようになった生徒の割合70%以上	○就職・進学講演会の開催 ○個別面談や相談の実施 ○学年団・就職支援相談員と連携した進路指導 ○アルバイト・インターンシップを通した勤労観の育成	○3年次生以上の進学希望者対象に「卒業生に学ぶ」講演会を6月に実施し、進学の実情を知ることができ、進路意識の向上につながった。 ○1年次生から進路意識の向上を図るため「進路別説明会」を8月下旬に実施し、進路意識の向上につながった。 ○学年団、就職支援相談員と連携して、進路LHRを実施している。 ○就職支援相談員を通じてアルバイト紹介や事前指導を行っている。	B	○教員と就職支援相談員との連携を図り、1年次生からの長期指導計画を模索する。
	○「産業社会と人間」「総合的な探究・学習の時間」の充実	○社会的自立に向けて、さらに系統的な学習の確立が必要である。	○社会的自立に必要なスキルが、学年に応じた身につけている。 ○講演会・学習発表会等を通して「自分は成長した。」と肯定的に感じる生徒の割合85%以上	○系統的な学習プログラムの構築 ○学習成果発表会の実施 ○面接・着こなし講習会の実施	○計画に基づき実施しており、体験活動とおとして生徒の社会性が育成され、いきいきと学校生活を送る姿が見られるようになってきている。	A	○生徒が主体的に行動できるよう、今後も計画に沿って通り実施していく。
	○関係機関との連携	○多様な生徒の特性を踏まえた支援の在り方を探るべく、関係機関との連携が必要である。	○自分が必要な進路相談および対策や準備ができ、進路実現を図ることができる。	○上級学校・事業所見学の実施 ○ハローワーク、若者サポートステーション、障害者就業・生活支援センターとの連携	○1年次生対象に、学校・事業所見学を9月に実施。 ○福祉就労に向けて、教育相談、担任、しゅーと、ハローワークと連携。 ○3年次生以上を対象に進路ガイダンスをエフオール(5月)、ハローワーク(6月)、スクールプラス(8月)による講演会を合計4回実施。	B	○多様な生徒の進路希望に対応するために、外部の専門機関等と連携を密にし、積極的に活用していく。
5 学校業務改善に向けての取組	○長時間勤務の解消	○学校行事などにより長時間勤務になる時期がある。	○月45時間、年360時間を超える時間外業務がない。	○衛生委員会での時間外労働時間集計結果の周知と超勤者への声かけ ○定時退勤日・定時退勤週の実施	○月45時間超勤務者は4月に2名、5〜6月に1名ずつあった。8月以降の時間外業務は減少傾向にある。 ○定時退勤日を行事予定表に記載するとともに朝礼で周知を行っている。	B	○衛生委員会での情報共有を密にし、教職員全体で時間外業務を減らす取組を継続し、長時間勤務にならないように声かけをしていく。 ○定時退勤日・定時退勤週を設定し、周知する。
	○働く上で効率のよい職場環境づくり	○職員室など整理が必要となるところもある。共有フォルダもデータが整理・整頓がいきとどいていない。	○快適な職場環境で業務が効率的にできる。	○校内安全点検の実施と破損箇所等の迅速な改善 ○教職員の整理・整頓意識の啓発 ○共有フォルダの整理 ○職場環境での感染予防対策の継続	○6月に安全点検を実施し、危険箇所等の確認、可能な範囲で即時対応をした。 ○職員室の整理整頓日を月1回設定するとともに、印刷室などは毎日整理整頓を心かけている。 ○共有フォルダの一時保管場など整理途中である。 ○日常的に換気やアルコール消毒液の設置など感染予防対策を行っている。	B	○後期も安全点検を実施する。 ○執務室整理整頓日の周知とごみや古紙等の毎日の整理・処分を実施する。 ○共有フォルダの整理を推進していく。 ○引き続き感染予防対策を行う。

評価基準

A：十分達成

B：概ね達成

C：変化の兆し

D：まだ不十分

E：目標・方策の見直し

【100%】

【80%程度】

【60%程度】

【40%程度】

【30%以下】